

建築基準法 総合判定表

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

見本 太郎

■ 建物情報

屋根の重さ	軽い屋根	重い屋根	風力区分	一般地域	強風地域
-------	-----------------	-------------	------	-------------	-----------------

■ 壁量計算

建築基準法施行令第46条「構造耐力上必要な軸組等」第4項により軸組長さを求める方法

階	方向	地震力			風圧力			存在壁量 (cm)	壁量安全率		判定 H $\geq$ 1.00 かつ J $\geq$ 1.00	壁量計算 判定
		床面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	見付面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)		地震力	風圧力		
		A	B	C=A $\times$ B	D	E	F=D $\times$ E		H=G $\div$ C	J=G $\div$ F		
2	X	76.19	21	1599.99	20.23	50	1011.50	1092.00	0.68	1.07	×	不 適 合
	Y			1599.99	36.00		1800.00	1228.50	0.76	0.68	×	
1	X	89.43	33	2951.19	43.45	50	2172.50	2457.00	0.83	1.13	×	
	Y			2951.19	72.50		3625.00	2866.50	0.97	0.79	×	

・床面積、見付面積: “*”は編集値(任意に入力した値)を使用
 ・地震力の必要壁量: 「地盤割増」「必要壁量割増」を含みます
 (地盤割増: 1.00、必要壁量割増: 1.00)

・判定: 「壁量安全率(地震力・風圧力)」がともに1.00以上 → ○
 「壁量安全率(地震力・風圧力)」の一方でも1.00未満 → ×
 ・壁量計算判定: 「判定」がすべて“○”の場合 → 適合

■ 偏心率

平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」

階	方向	偏心率	判定 偏心率 $\leq$ 0.30	偏心率判定
2	X	0.06	○	適 合
	Y	0.13	○	
1	X	0.13	○	
	Y	0.20	○	

● 四分割法と偏心率の判定について

平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」では、「四分割法」または「偏心率」のいずれかの判定が適合となること、とされています。

四分割法判定 = “適合” または 偏心率判定 = “適合”

・判定: 「偏心率」が0.30以下 → ○
 「偏心率」が0.30超 → ×

・偏心率判定: 「判定」がすべて“○”の場合 → 適合
 「判定」がひとつでも“×”の場合 → 不適合

■ 四分割法

平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」

階	方向	位置	床面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	充足率 判定	壁率比	壁率比 判定	四分割法 判定
			①	②	③=①×②	④	⑤=④÷③	⑤>1.00	⑥=⑤小÷⑤大	⑥≥0.5	⑤or⑥=○
2	X	上	23.19	21	486.99	546.00	1.12	○	0.87	○	不 適 合
		下	13.25	21	278.25	273.00	0.98	×			
	Y	左	14.50	21	304.50	546.00	1.79	○	-	-	
		右	23.19	21	486.99	546.00	1.12	○			
1	X	上	26.10	33	861.30	1228.50	1.42	○	0.46	×	
		下	12.43	33	410.19	273.00	0.66	×			
	Y	左	18.84	33	621.72	750.75	1.20	○	-	-	
		右	23.61	33	779.13	955.50	1.22	○			

・充足率判定: 「充足率判定」が“×”の場合は、その方向の壁率比判定を行います。
 ・四分割法判定: 「充足率判定」または「壁率比判定」が“○”の場合 → 適合
 ・係数: “*”がついている箇所は平屋の係数を使用。

■ N値計算

平成12年建設省告示第1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」

N	告示表三	金物名	金物数量(箇所)		
			1階	2階	計
0	(い)	短ほぞ差し及びかすがい打ち	68	80	148
~0.65	(ろ)	長ほぞ差し込み栓又はかど金物CP-L	30	24	54
~1.0	(は)	山形プレートVP又はかど金物CP-T	0	0	0
~1.4	(に)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘なし)	10	6	16
~1.6	(ほ)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘あり)	0	0	0
~1.8	(へ)	10kN引き寄せ金物	0	0	0
~2.8	(と)	15kN引き寄せ金物	0	0	0
~3.7	(ち)	20kN引き寄せ金物	0	0	0
~4.7	(り)	25kN引き寄せ金物	0	0	0
~5.6	(ぬ)	15kN引き寄せ金物 $\times$ 2	0	0	0
5.6超	(一)	適合する金物が存在しない	0	0	0

※金物数量は柱頭で1箇所、柱脚で1箇所と集計しています

壁量計算
現状

建築基準法（壁量計算）

建物名 見本 太郎

壁量計算表

存在壁量明細表

壁量計算平面図

見付面積根拠図

見付面積計算表

床面積根拠図

床面積計算表

立面図

■注意事項

・建築基準法施行令第46条「構造耐力上必要な軸組等」第4項により軸組長さを求める方法に準拠した計算を行います。

一級建築士事務所（知事）13493号
一級建築士事務所 花設計工房
〒252-1121
神奈川県綾瀬市小園1431-14
TEL0467-55-5056
FAX0467-81-4228

壁量計算
現状

壁量計算表

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

見本 太郎

■ 建物概要

建物コード	2212
建物名称	見本 太郎
備考	在来構法
入力者	
建築地名	神奈川県綾瀬市

床面積 (㎡)	2階	76.19
	1階	89.43
屋根の重さ	重い屋根	
軟弱地盤割増	割増なし	
風力区分	一般地域(50cm/㎡)	

■ 地震力による必要壁量計算

階	床面積 (㎡)	地震力用係数 (cm/㎡)		地盤割増	必要壁量割増	必要壁量 (cm)
	A	B		B1	B2	C=A×B×B1×B2
2	76.19	重い屋根	21	1.00	1.00	1599.99
1	89.43		33			2951.19

- ・床面積: 1階に「オーバーハング」「ポーチ」および「バルコニー」の面積は含みません。「小屋裏収納等」は当該階の面積に含みます。(下階の面積には加算されません)「*」が付いている数値は面積編集により変更された面積
- ・地震力用係数: 地震力に対する床面積あたりの必要壁量(cm/㎡)
※右表参照
- ・地盤割増: 特定行政庁が建築基準法施行令第88条第2項の規定によって指定した区域内における場合は1.5とします。
(建築基準法施行令第46条)
- ・必要壁量割増: 壁量の割増係数(任意設定)。1.00以上1.50以下の範囲で設定を行うことができます。

＜地震力用係数表＞

	軽い屋根	重い屋根
2階	15	21
1階	29	33
平屋	11	15

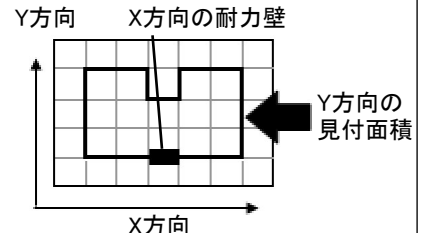
■ 風圧力による必要壁量計算

階	方向	見付面積 (㎡)		風圧力用係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)
		D	E		F=D×E
2	X	20.23	イ	50	1011.50
	Y	36.00	ロ	50	1800.00
1	X	43.45	ハ	50	2172.50
	Y	72.50	ニ	50	3625.00

- ・見付面積: 『見付面積計算表』の(イ・ロ・ハ・ニ)参照
「*」が付いている数値は面積編集により変更された面積
- ・風圧力用係数: 風圧力に対する見付面積あたりの必要壁量
 - ・特定行政庁が特に強い風が吹くと定めた地域: 51~75(cm/㎡)
 - ・その他の地域: 50(cm/㎡)

●見付面積の方向について

X方向の必要壁量を求める際は
Y方向の見付面積を用います。



■ 壁量判定表 (壁量安全率)

階	方向	必要壁量		存在壁量 (cm)	壁量安全率		判定
		地震力 (cm)	風圧力 (cm)		地震力	風圧力	
		C	F		H=G÷C	J=G÷F	
2	X	1599.99	1011.50	1092.00	0.68	1.07	×
	Y	1599.99	1800.00	1228.50	0.76	0.68	×
1	X	2951.19	2172.50	2457.00	0.83	1.13	×
	Y	2951.19	3625.00	2866.50	0.97	0.79	×

- ・存在壁量: 壁倍率×壁長 ※『存在壁量明細表』を参照
- ・壁量安全率: 存在壁量÷必要壁量(地震力・風圧力)
- ・判定: 壁量安全率(地震力、風圧力)がともに1.00以上の場合 → ○
壁量安全率(地震力、風圧力)が一方でも1.00未満の場合 → ×

■ 壁量計算判定

壁量安全率の各階、各方向の判定がすべて“○”の場合 → 適合
壁量安全率の各階、各方向の判定がひとつでも“×”の場合 → 不適合

壁量計算判定

不適合

■ コメント

壁量計算
現状

存在壁量明細表
(1階X方向)

日付: 2014年04月21日 11:49:07
建物コード: 002212
見本 太郎

柱 1	柱 2	部位名	材種名	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
				a	b	G=a×b	
1	2	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
2	3	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
3	4	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	182.00	273.00	
6	7	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
9	10	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
11	12	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
20	21	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	182.00	273.00	
31	32	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	182.00	273.00	
32	33	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
33	34	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
35	36	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
38	39	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
43	44	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
51	52	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
53	54	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
				存在壁量合計		2457.00	

■記号の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の5.0倍となるよう低減された値になっています。

「備考」 : ※ → 斜め壁の直交成分を表示

壁量計算
現状

存在壁量明細表
(1階Y方向)

日付:2014年04月21日 11:49:07
建物コード:002212
見本 太郎

柱 1	柱 2	部位名	材種名	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
				a	b	G=a×b	
1	13	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
13	18	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
28	37	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
37	42	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	136.50	204.75	
3	14	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
4	15	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
15	19	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
29	39	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
5	20	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	182.00	273.00	
30	40	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
40	45	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	136.50	204.75	
47	51	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
9	24	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	182.00	273.00	
48	54	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
12	17	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
27	36	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
36	41	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
46	50	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
				存在壁量合計		2866.50	

■記号の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の5.0倍となるよう低減された値になっています。

「備考」 : ※ → 斜め壁の直交成分を表示

壁量計算

現状

存在壁量明細表

(2階X方向)

日付:2014年04月21日 11:49:07

建物コード:002212

見本 太郎

柱 1	柱 2	部位名	材種名	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
				a	b	G=a×b	
1	2	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
2	3	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
8	9	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
11	12	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
33	34	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
39	40	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
49	50	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
53	54	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
				存在壁量合計		1092.00	

■記号の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の5.0倍となるよう低減された値になっています。

「備考」 : ※ → 斜め壁の直交成分を表示

壁量計算

現状

存在壁量明細表

(2階Y方向)

日付:2014年04月21日 11:49:07

建物コード:002212

見本 太郎

柱 1	柱 2	部位名	材種名	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
				a	b	G=a×b	
1	13	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
13	18	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
28	37	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
3	14	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
5	15	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
12	17	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
27	36	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
36	44	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
48	55	(筋かい)	筋かい(30×90) シングル	1.50	91.00	136.50	
				存在壁量合計		1228.50	

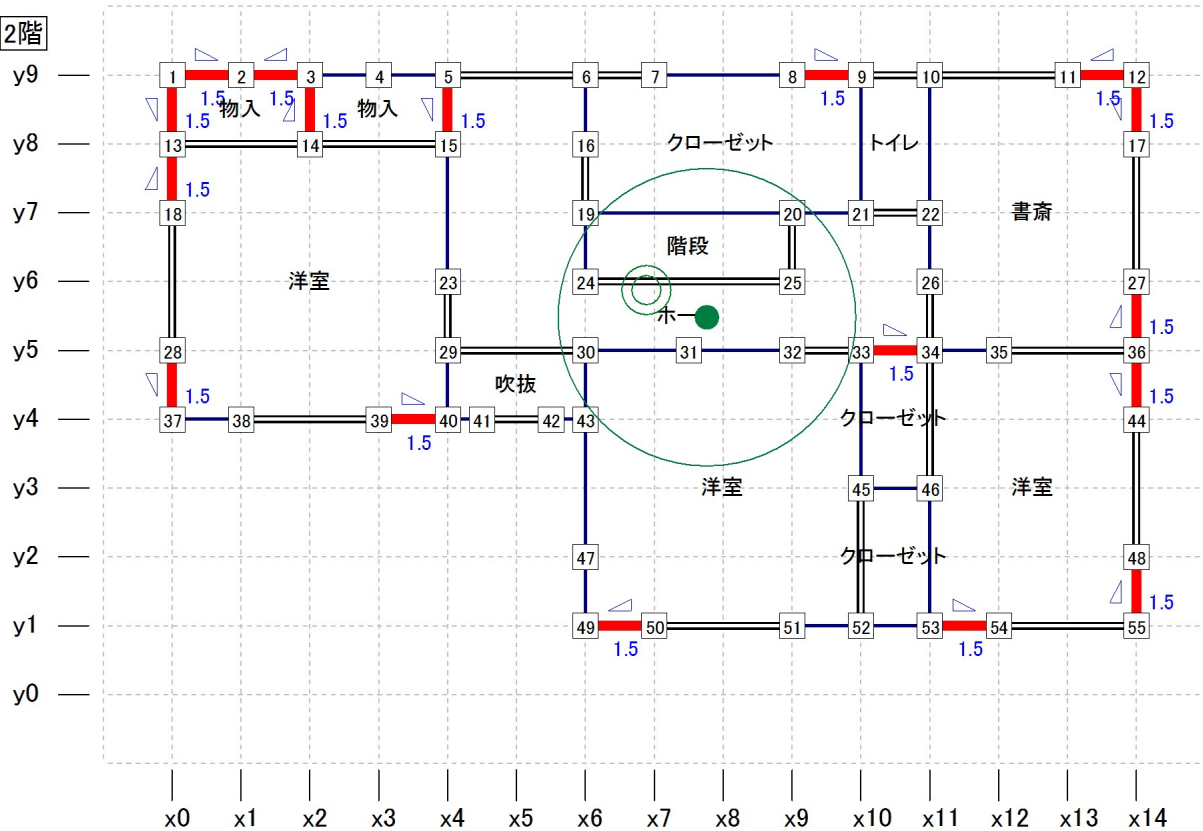
■記号の説明

- 「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の5.0倍となるよう低減された値になっています。
- 「備考」 : ※ → 斜め壁の直交成分を表示

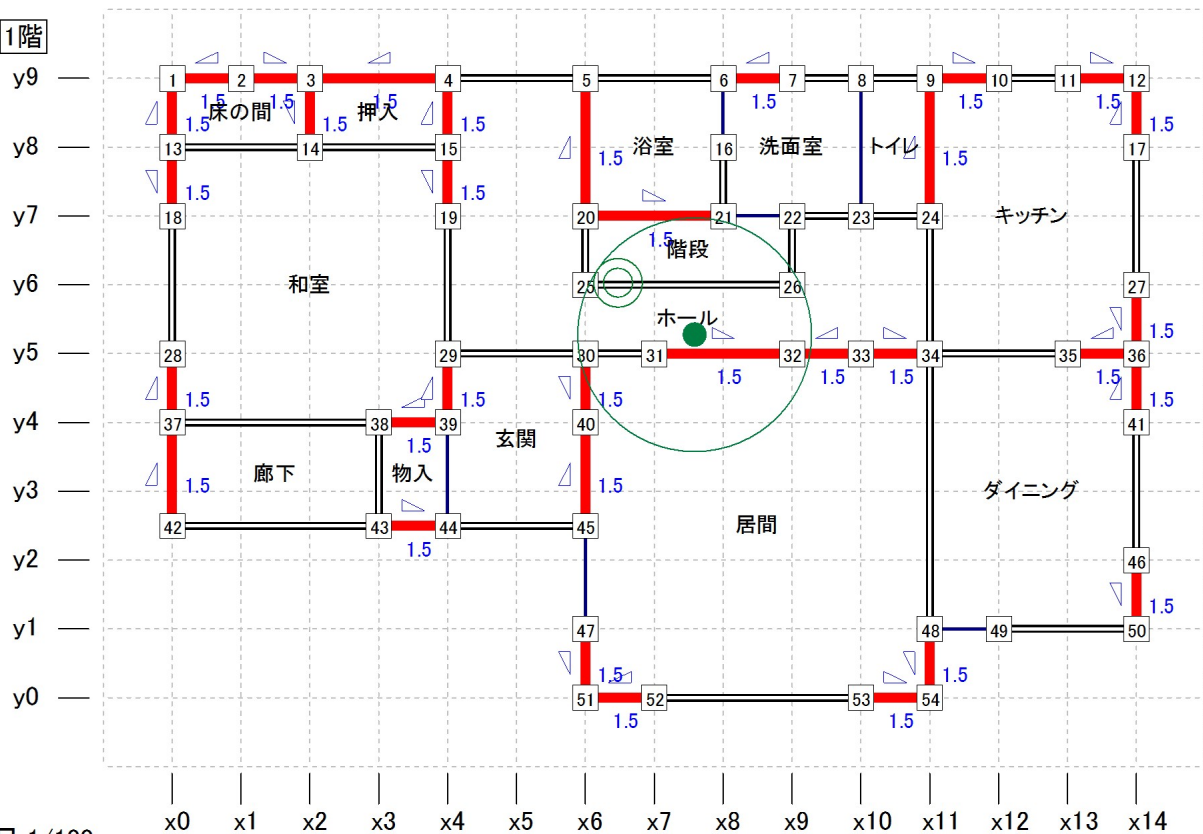
壁量計算
現状

壁量計算平面図

2階



1階



縮尺 1/100

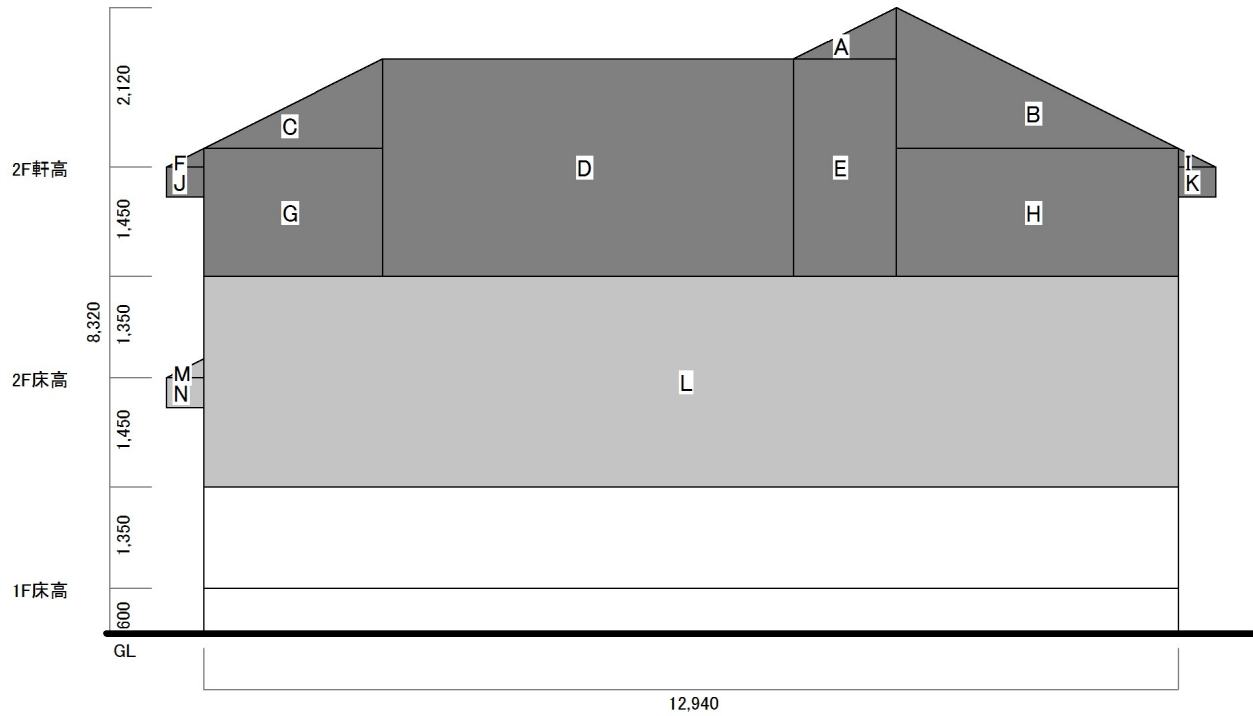
凡例

— 一般壁	— 開口部	— 耐力壁	● 重心	◎ 剛心
△ 筋かいシングル	△ 筋かいダブル	— 面材耐力壁		■ 小屋裏収納等

壁量計算
現状

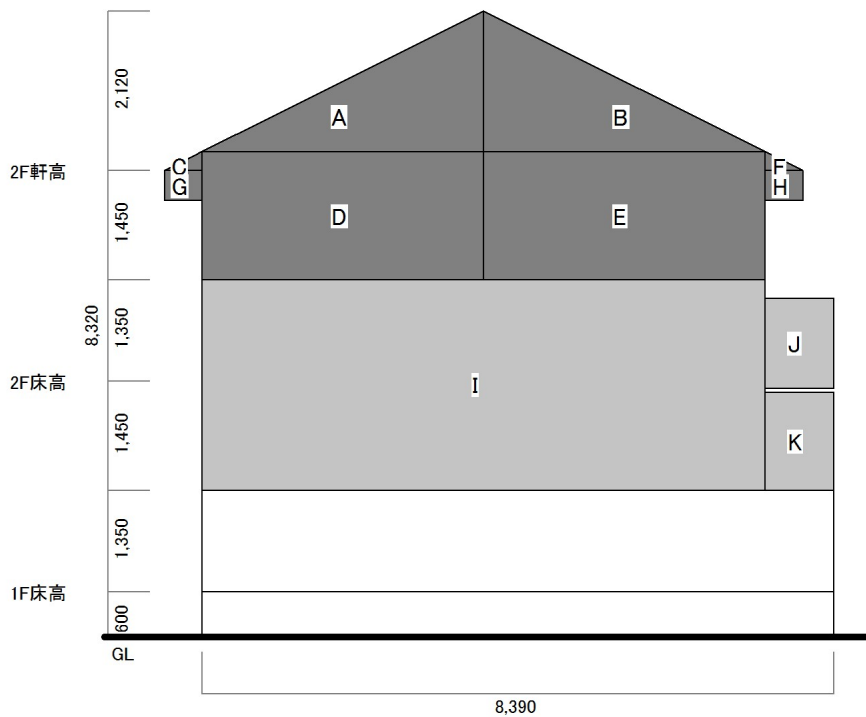
見付面積根拠図

■X方向



■Y方向

縮尺 1/100



凡例

■ 1、2階見付面積加算範囲

■ 1階見付面積加算範囲

壁厚さ：100mm

屋根厚さ：300mm

屋根形状1F：寄棟

屋根形状2F：寄棟

軒の出：600mm

ケラバの出：600mm

一級建築士事務所(知事)13493号

壁量計算

現状

見付面積計算表(X方向)

Y方向の壁量計算用

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

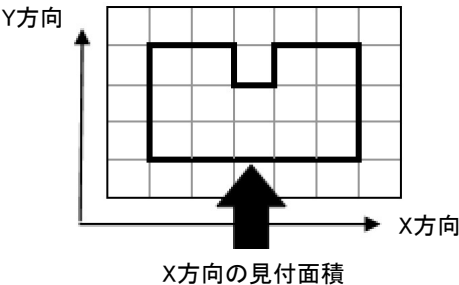
見本 太郎

区画	計算式	面積 (㎡)
A	$1.365 \times 0.682 \div 2$	0.4654650
B	$3.740 \times 1.870 \div 2$	3.4969000
C	$2.375 \times 1.188 \div 2$	1.4107500
D	5.460×2.888	15.7684800
E	1.365×2.888	3.9421200
F	$0.500 \times 0.250 \div 2$	0.0625000
G	2.375×1.700	4.0375000
H	3.740×1.700	6.3580000
I	$0.500 \times 0.250 \div 2$	0.0625000
J	0.500×0.400	0.2000000
K	0.500×0.400	0.2000000
L	12.940×2.800	36.2320000
M	$0.500 \times 0.250 \div 2$	0.0625000
N	0.500×0.400	0.2000000

■計算結果

階	計算式	見付面積 (㎡)	記号
2階	A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K	36.00	□
1階	A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K+L+M+N	72.50	二

■見付面積の方向



壁量計算

現状

見付面積計算表(Y方向)

X方向の壁量計算用

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

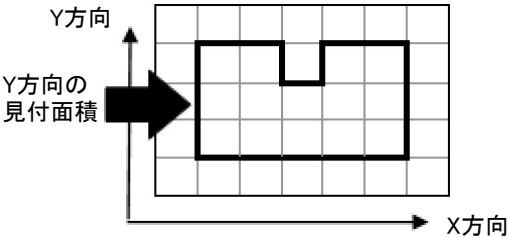
見本 太郎

区画	計算式	面積 (㎡)
A	$3.740 \times 1.870 \div 2$	3.4969000
B	$3.740 \times 1.870 \div 2$	3.4969000
C	$0.500 \times 0.250 \div 2$	0.0625000
D	3.740×1.700	6.3580000
E	3.740×1.700	6.3580000
F	$0.500 \times 0.250 \div 2$	0.0625000
G	0.500×0.400	0.2000000
H	0.500×0.400	0.2000000
I	7.480×2.800	20.9440000
J	0.910×1.200	1.0920000
K	0.910×1.300	1.1830000

■計算結果

階	計算式	見付面積 (㎡)	記号
2階	A+B+C+D+E+F+G+H	20.23	イ
1階	A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K	43.45	ハ

■見付面積の方向

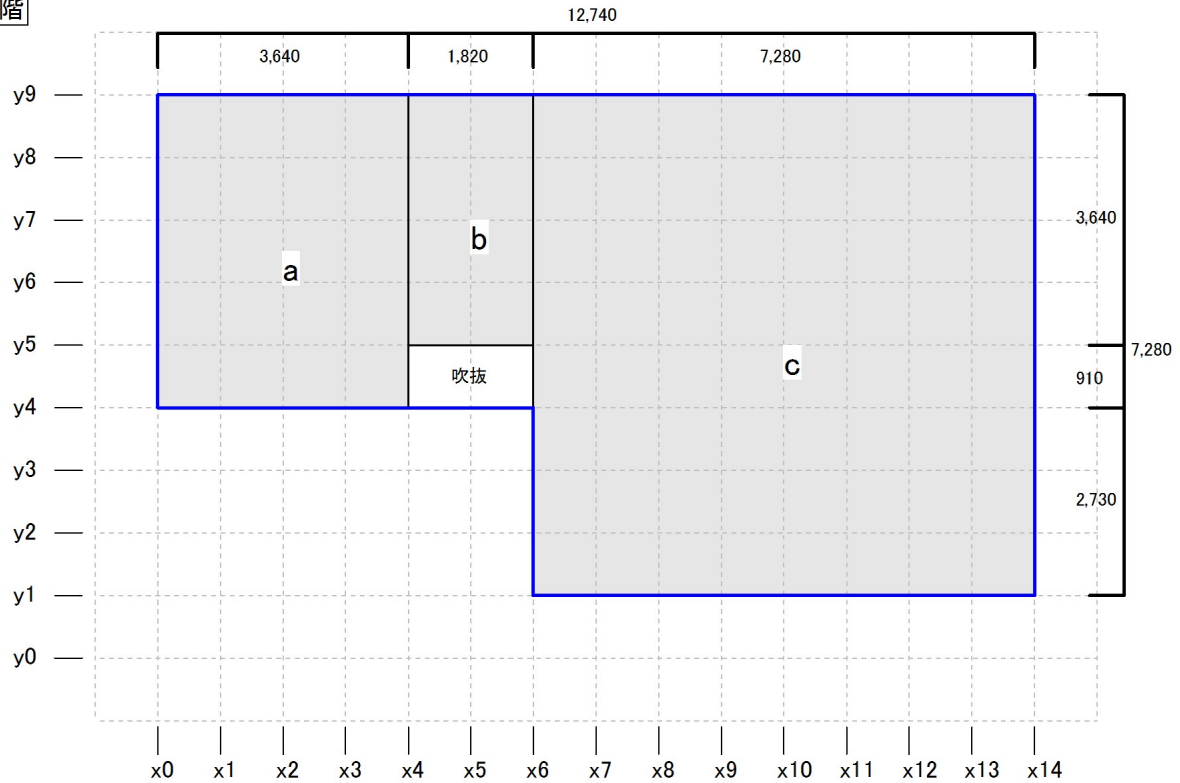


壁量計算

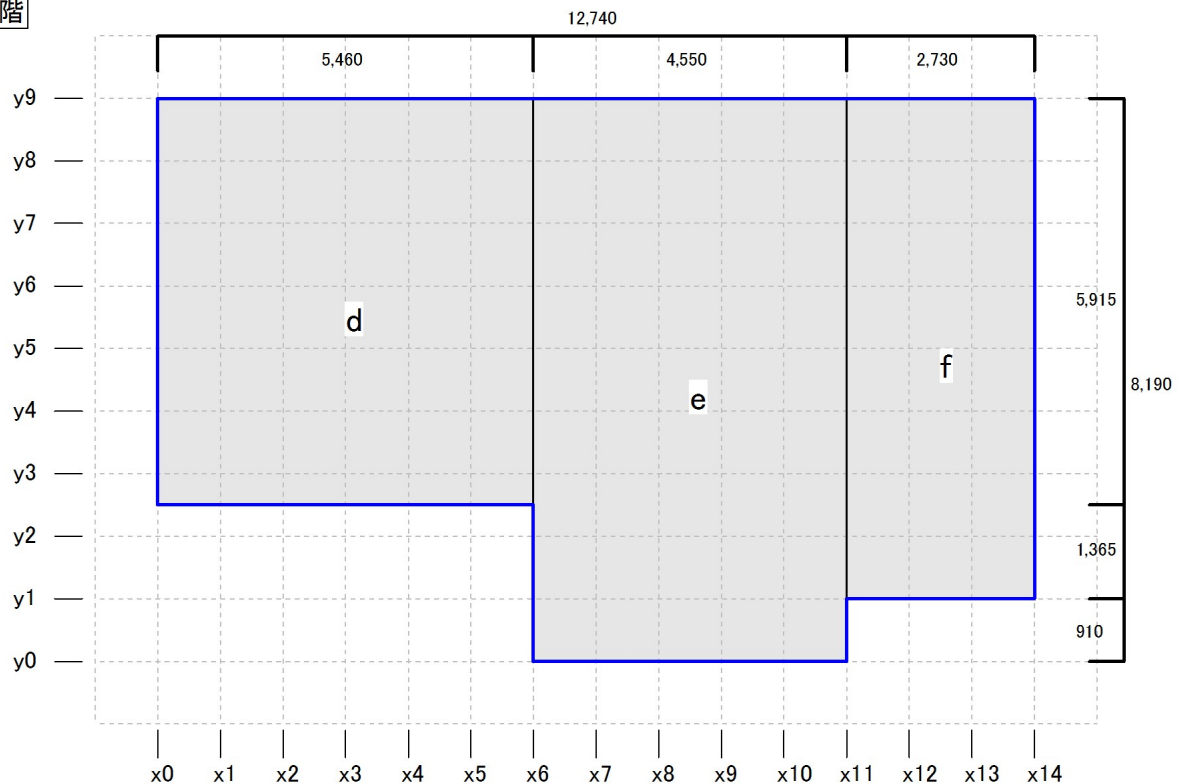
現状

床面積根拠図

2階



1階



縮尺 1/110

凡例 床面積区画

a b c …… 床面積区画名

Ka Kb Kc …… 床面積区画名(小屋裏収納等)

壁量計算

現状

床面積計算表

日付:2014年04月21日 11:49:07
建物コード:002212
見本 太郎

■ブロック別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
d	5.915	5.460	32.2959000	
e	8.190	4.550	37.2645000	
f	7.280	2.730	19.8744000	

[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	4.550	3.640	16.5620000	
b	3.640	1.820	6.6248000	
c	7.280	7.280	52.9984000	

■壁量計算用床面積

階	部位	計算式	壁量計算用床面積 (㎡)
2	床	a+b+c	76.19
	小屋裏収納等		0.00
	合計	(2階床)+(2階小屋裏収納等)×1.4÷2.1	76.19
1	床	d+e+f	89.43
	小屋裏収納等		0.00
	合計	(1階床)+(1階小屋裏収納等)×1.4÷2.1	89.43

■記号の説明

「備考」: ◇ → 小屋裏収納等範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1)
 ◆ → 小屋裏収納等重複範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1×2)
 ▲ → 三角形区画

壁量計算
現状

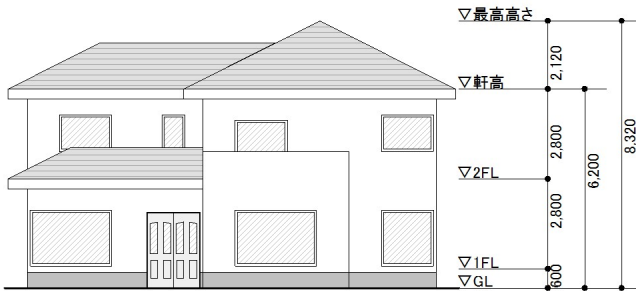
立面図

日付: 2014年04月21日 11:49:07

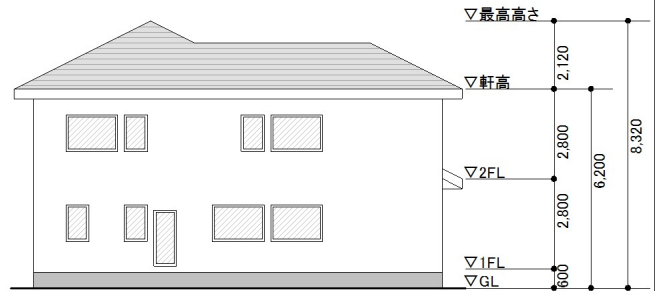
建物コード: 002212

見本 太郎

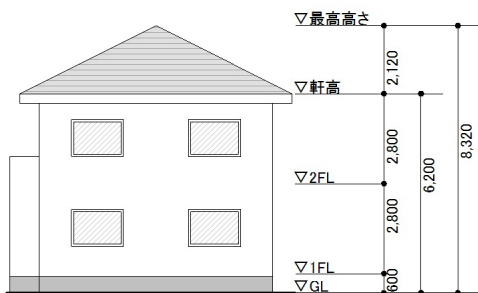
南立面図



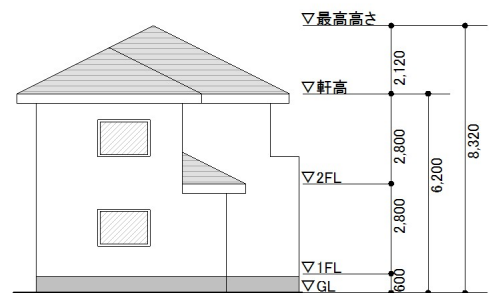
北立面図



東立面図



西立面図



壁量計算
現状

建築基準法（偏心率）

建物名 見本 太郎

偏心率計算表

偏心率明細表

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき、偏心率を用いて軸組を釣合い良く配置する方法に準拠した計算を行います。
- ・四分割法と偏心率の判定結果については、平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」により、いずれかの判定が適合となること、とされています。

一級建築士事務所（知事）13493号
一級建築士事務所 花設計工房
〒252-1121
神奈川県綾瀬市小園1431-14
TEL0467-55-5056
FAX0467-81-4228

壁量計算

現状

偏心率計算表

日付: 2014年04月21日 11:49:07
建物コード: 002212
見本 太郎

要素名	階	方向	計算式	計算値	備考
床面積 (㎡)	2	-	※必要壁量用面積と異なる場合あり	77.84	
	1	-	※必要壁量用面積と異なる場合あり	89.43	
重心 (重い屋根)	2	X座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	7.07	
		Y座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	4.99	
	1	X座標	$\{15 \Sigma(1\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積}) + 18 \Sigma(2\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積})\} \div (15 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 18 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	6.91	
		Y座標	$\{15 \Sigma(1\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積}) + 18 \Sigma(2\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積})\} \div (15 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 18 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	4.80	
有効耐力壁量 (m)	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長})$	10.92	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長})$	12.29	イ
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長})$	24.57	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長})$	28.67	イ
耐震要素	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	58.38	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	77.01	口
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	134.77	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	168.93	口
剛心座標	2	X座標	耐震要素[2階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階Y方向]	6.27	
		Y座標	耐震要素[2階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階X方向]	5.35	
	1	X座標	耐震要素[1階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階Y方向]	5.89	
		Y座標	耐震要素[1階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階X方向]	5.49	
偏心距離 (m)	2	X方向	絶対値(剛心[2階X座標] - 重心[2階X座標])	0.80	
		Y方向	絶対値(剛心[2階Y座標] - 重心[2階Y座標])	0.36	
	1	X方向	絶対値(剛心[1階X座標] - 重心[1階X座標])	1.01	
		Y方向	絶対値(剛心[1階Y座標] - 重心[1階Y座標])	0.68	
ねじり剛性	2	X方向	2階X方向各壁のねじり剛性の合計	102.72	ハ
		Y方向	2階Y方向各壁のねじり剛性の合計	426.02	ハ
		合計	ねじり剛性[2階X方向] + ねじり剛性[2階Y方向]	528.74	
	1	X方向	1階X方向各壁のねじり剛性の合計	178.86	ハ
		Y方向	1階Y方向各壁のねじり剛性の合計	583.53	ハ
		合計	ねじり剛性[1階X方向] + ねじり剛性[1階Y方向]	762.40	
弾力半径	2	X方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階X方向}])}$	6.96	
		Y方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階Y方向}])}$	6.56	
	1	X方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階X方向}])}$	5.57	
		Y方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階Y方向}])}$	5.16	
偏心率	2	X方向	偏心距離[2階Y方向] $\div$ 弾力半径[2階X方向]	0.06	
		Y方向	偏心距離[2階X方向] $\div$ 弾力半径[2階Y方向]	0.13	
	1	X方向	偏心距離[1階Y方向] $\div$ 弾力半径[1階X方向]	0.13	
		Y方向	偏心距離[1階X方向] $\div$ 弾力半径[1階Y方向]	0.20	

※ 備考に記号のあるものは、「偏心率明細表」を参照してください。
※ 重心(1階)は、1階および2階の形状を考慮して算出しています。
※ 1階重心(X,Y座標)における係数は屋根の重さによって変動します。
(重い屋根:15 軽い屋根:11)

■ 偏心率の判定
各階・各方向の偏心率がすべて0.30以下になる場合 → 適合
各階・各方向の偏心率がひとつでも0.30を超える場合 → 不適合

偏心率判定

適合

壁量計算

現状

偏心率明細表

(1階X方向)

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

見本 太郎

■1階X方向

通り	Y座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心Y座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) ²
y0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	5.49	41.07
y0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	5.49	41.07
y2'	2.28	1.50	0.91	1.37	3.11	5.49	14.07
y4	3.64	1.50	0.91	1.37	4.97	5.49	4.65
y5	4.55	1.50	1.82	2.73	12.42	5.49	2.39
y5	4.55	1.50	0.91	1.37	6.21	5.49	1.19
y5	4.55	1.50	0.91	1.37	6.21	5.49	1.19
y5	4.55	1.50	0.91	1.37	6.21	5.49	1.19
y7	6.37	1.50	1.82	2.73	17.39	5.49	2.14
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.49	9.99
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.49	9.99
y9	8.19	1.50	1.82	2.73	22.36	5.49	19.97
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.49	9.99
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.49	9.99
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.49	9.99
				24.57	134.77		178.86
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

壁量計算

現状

偏心率明細表

(1階Y方向)

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

見本 太郎

■1階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) ²
x0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	5.89	47.41
x0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	5.89	47.41
x0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	5.89	47.41
x0	0.00	1.50	1.37	2.05	0.00	5.89	71.11
x2	1.82	1.50	0.91	1.37	2.48	5.89	22.65
x4	3.64	1.50	0.91	1.37	4.97	5.89	6.93
x4	3.64	1.50	0.91	1.37	4.97	5.89	6.93
x4	3.64	1.50	0.91	1.37	4.97	5.89	6.93
x6	5.46	1.50	1.82	2.73	14.91	5.89	0.51
x6	5.46	1.50	0.91	1.37	7.45	5.89	0.26
x6	5.46	1.50	1.37	2.05	11.18	5.89	0.38
x6	5.46	1.50	0.91	1.37	7.45	5.89	0.26
x11	10.01	1.50	1.82	2.73	27.33	5.89	46.27
x11	10.01	1.50	0.91	1.37	13.66	5.89	23.13
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	5.89	63.99
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	5.89	63.99
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	5.89	63.99
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	5.89	63.99
				28.67	168.93		583.53
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

壁量計算

現状

偏心率明細表

(2階X方向)

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

見本 太郎

■2階X方向

通り	Y座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心Y座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) ²
y1	0.91	1.50	0.91	1.37	1.24	5.35	26.86
y1	0.91	1.50	0.91	1.37	1.24	5.35	26.86
y4	3.64	1.50	0.91	1.37	4.97	5.35	3.97
y5	4.55	1.50	0.91	1.37	6.21	5.35	0.87
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.35	11.04
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.35	11.04
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.35	11.04
y9	8.19	1.50	0.91	1.37	11.18	5.35	11.04
				10.92	58.38		102.72
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

壁量計算

現状

偏心率明細表

(2階Y方向)

日付: 2014年04月21日 11:49:07

建物コード: 002212

見本 太郎

■2階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) ²
x0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	6.27	53.64
x0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	6.27	53.64
x0	0.00	1.50	0.91	1.37	0.00	6.27	53.64
x2	1.82	1.50	0.91	1.37	2.48	6.27	27.02
x4	3.64	1.50	0.91	1.37	4.97	6.27	9.43
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	6.27	57.16
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	6.27	57.16
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	6.27	57.16
x14	12.74	1.50	0.91	1.37	17.39	6.27	57.16
				12.29	77.01		426.02
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。